一般社団法人 全国LPガス協会
需要開発セミナー
「高効率給湯機導入について」

2024.6.24

（一社）日本ガス石油機器工業会

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

１．高効率給湯機とは

■エコジョーズ
■ハイブリッド給湯機

２．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
■工業会の活動・取り組み姿勢

３．補助金の活用について

■国の補助支援策
■活用案のご紹介

４．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

５．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

1．高効率給湯機とは

■エコジョーズ
■ハイブリッド給湯機

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
■工業会の活動・取り組み姿勢

3．補助金の活用について

■国の補助支援策
■活用案のご紹介

4．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

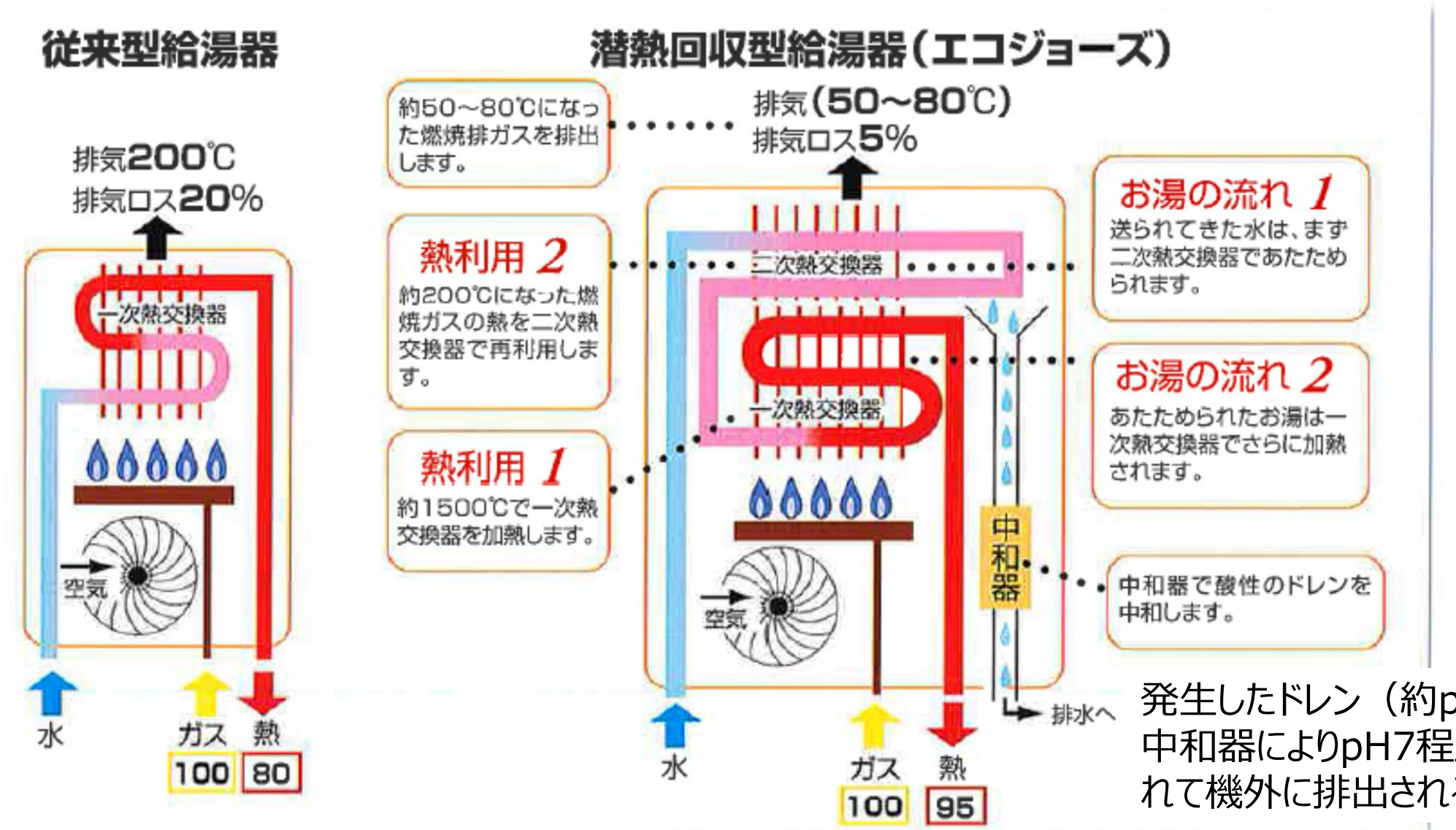
5．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

1．高効率給湯機とは

■エコジョーズ

- 一次熱交換器から出てきた排気中の潜熱（＋顕熱）を、二次熱交換器により回収することで、従来型給湯器では約８０％であった給湯熱効率を、９５％まで向上させた省エネルギー型給湯器
- 排気ガス中の潜熱まで回収するためドレンが発生する。pH３程度のドレンは、機内の中和器により、pH７程度に中和され機外に排出される。



発生したドレン（約pH３）は、中和器によりpH7程度に中和されて機外に排出される

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

１．高効率給湯機とは

■ハイブリッド給湯機

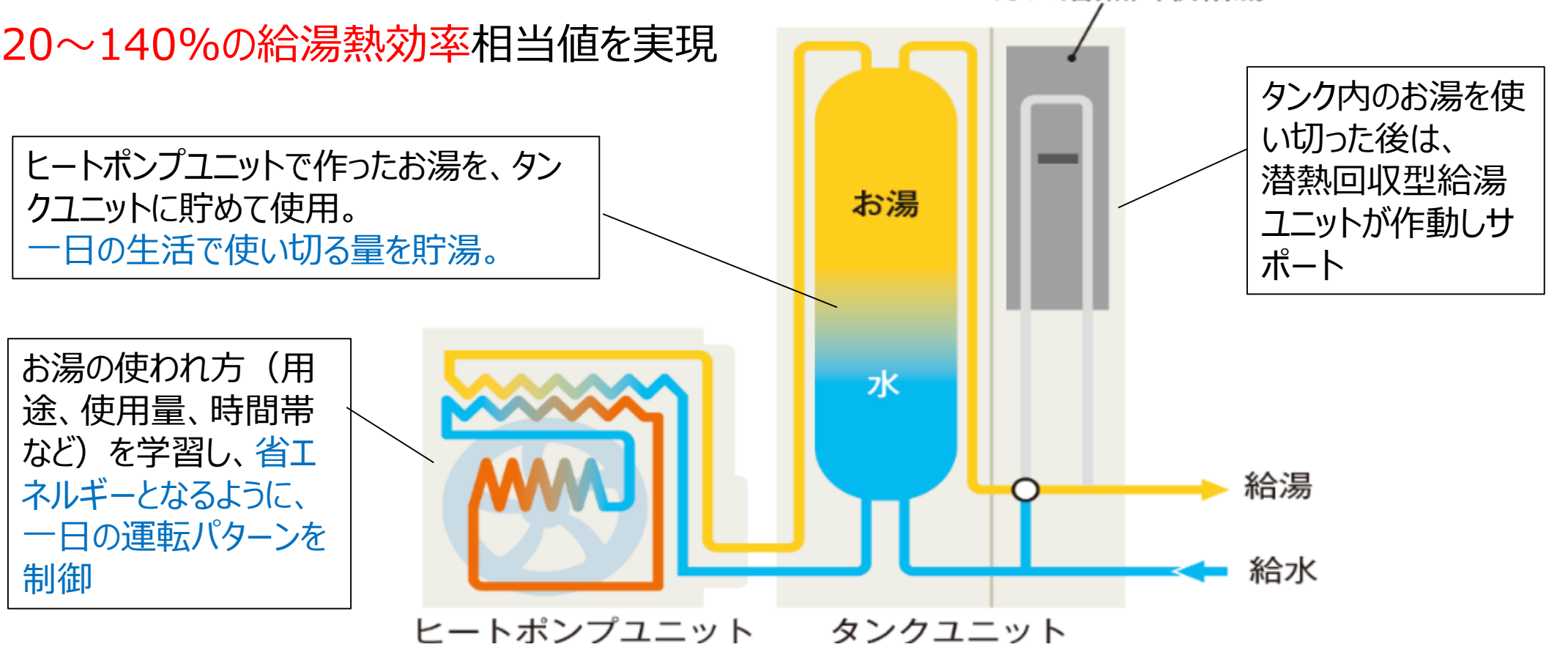
（１）電気でお湯を沸かす「ヒートポンプユニット」と、そのお湯を貯めておく「タンクユニット」、
追い焚きや大量のお湯を使う時に作動する「潜熱回収型給湯ユニット(エコジョーズ)」の
３ユニットで構成

（２）ハイブリッド給湯機の省エネ性のポイント

◇タンクユニットには、一日で使い切る量を効率の高いヒートポンプで貯湯
→作ったお湯を余らせない（余ったお湯は無駄な放熱となる）・・・160L以下の小タンク容量

◇学習機能で、省エネに最適な一日の運転パターンで制御
→季節や曜日、時間ごとに異なるご家庭のお湯の使用パターンを記憶し、蓄積データをもとに
お湯が必要な時間帯や湯量を予測し、最も効率よく貯湯

☞120～140%の給湯熱効率相当値を実現



Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

1．高効率給湯機とは

■ハイブリッド給湯機

（３）レジリエンス性について

◇ハイブリッド給湯機は、ガス給湯と電気給湯の2つの方式を組み合わせて持っていることにより、ガスもしくは電気、またはその両方が停止するような非常事態が発生しても、簡易な電源（ポータブル蓄電池等）を使うことで給湯を行うことができ、非常に高いレジリエンス性を有する特長のある給湯器となっています。

☞**災害時も給湯維持が見込まれる**

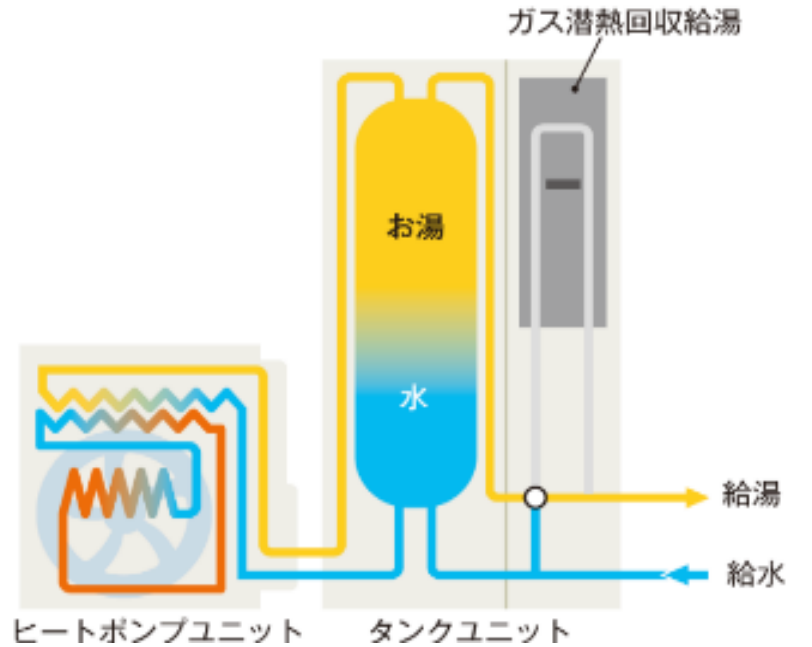
【停電＋ガス停止の場合】

①太陽光発電システムをお使いの場合

・太陽光発電で発電した電気を利用し、ヒートポンプでお湯を作ります。

②蓄電池をお使いの場合

・蓄電池に蓄えた電気を利用し、ヒートポンプでお湯を作ります。



【停電の場合】

①太陽光発電システム、もしくは蓄電池をお使いの場合

・太陽光発電で発電した電気、もしくは蓄電池に蓄えた電気を利用し、平常通りヒートポンプとバックアップ熱源機でお湯を作ります。

②インバーター発電機、ポータブル蓄電池をお使いの場合

・発電した電気や蓄電した電気を利用し、バックアップ熱源機でお湯を作ります。

【ガス停止の場合】

・電気（商用電源）が供給されているので、ヒートポンプでお湯を作ります。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

1．高効率給湯機とは

■エコジョーズ
■ハイブリッド給湯機

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
■工業会の活動・取り組み姿勢

3．補助金の活用について

■国の補助支援策
■活用案のご紹介

4．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

5．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー

（１）2020年10月、菅首相(当時)所信表明演説で
2050年度カーボンニュートラル(CN)、脱炭素社会
の実現を宣言。

（２）2021年6月のG7に先駆け、CN達成中間目標として、
2030年度温室効果ガス排出削減目標引き上げ発表。

G7 GHG(温室効果ガス)削減目標

国・地域	ＧＨＧ中期目標		ＧＨＧ長期目標
	目標時期	削減目標値	2050年にCN達成
日本	2030年度	▲46%(2013年比)	⇑
アメリカ	2030年	▲50~52%(2013年比)	⇑
ＥＵ	2030年	▲55%(1990年比)	⇑
英国	2035年	▲78%（1990年比)	⇑
カナダ	2030年	▲40~45%2005年比)	⇑

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー

（３）温室効果ガス排出量削減目標

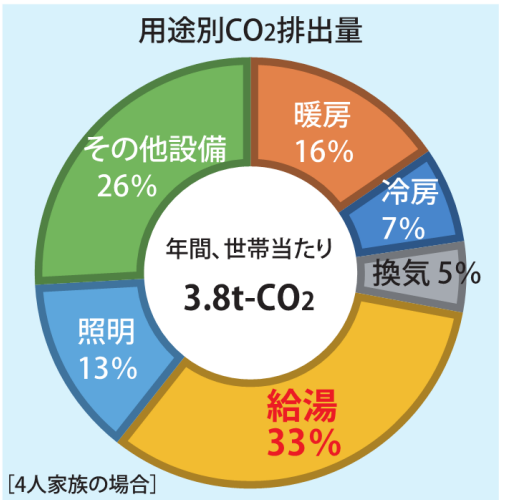
（単位：百万 t-CO_2）

部門	2013年度 実績	2019年度 実績	2030年度 目標･目安	削減割合 13年度比
産業	463	384	289	▲38%
業務その他	238	193	116	▲51%
家庭	**208**	**159**	**70**	**▲66%**
運輸	224	206	146	▲35%
エネルギー転換	106	89.3	56	▲47%

「家庭部門」は
66%削減と
非常に高い目標
（2013年度比）
（2013年度の1/3）

CO_2排出削減量
138百万t-CO_2

（４）家庭部門 住宅からの温室効果ガス排出量内訳



※［日本ガス石油機器工業会試算値］
4人家族、6地域（東京地区など）、都市ガス用給湯機をお使いの家庭
「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」（国交省他がWEB公開している住宅エネルギー算出プログラム）により算出した、上記ケースにおけるエネルギー量（一次エネルギー消費量）をベースに、都市ガスの場合のCO2排出量を試算

家庭内CO_2排出量 3.8t-CO_2
・一番多いのが給湯 33%
◆給湯の排出を減らすことが大事

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策

（１）3省合同（国交省・経産省・環境省）

「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」取りまとめ

年　度	住　　宅
2022	・補助制度における省エネ基準適合要件化 ・建築物省エネ法に基づく誘導基準の引き上げ （BEI ＝ 0.8　再エネを除く） ・エコまち法に基づく低炭素建築物の認定基準見直し
2023	・分譲マンションに係る住宅トップランナー基準の設定 （目標年度：2025年度）
2024	・新築住宅販売・賃貸時の省エネ性能表示の施行 ・既存住宅の省エネ性能表示の試行
2025	・住宅の省エネ基準への適合義務化 ・住宅トップランナー基準の見直し（目標年度：2027年度）
遅くても2030	・誘導基準適合8割超で省エネ基準をZEH基準(BEI = 0.8)及び強化外皮基準に引き上げ・適合義務付け

（出典）脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会

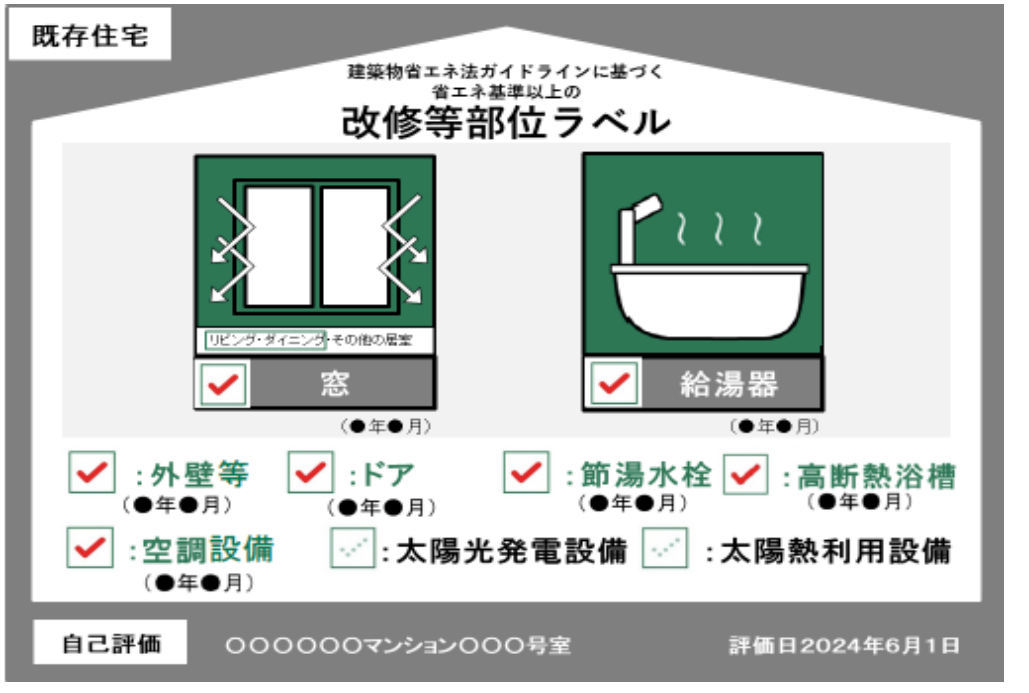
Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策

（２）省エネルギー性能表示について

2024年4月から住宅・建築物を販売・賃貸する事業者において、販売等の対象となる住宅・建築物の省エネルギー性能を表示することが努力義務化されました。省エネルギ性能を表示する際は、原則として規定のラベルを使用すること（左図は一例）が必要となりました。
また、既存建築物についても表示事項・表示方向が検討されています。



※画像はイメージです。
デザイン詳細は変更される可能性があります。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

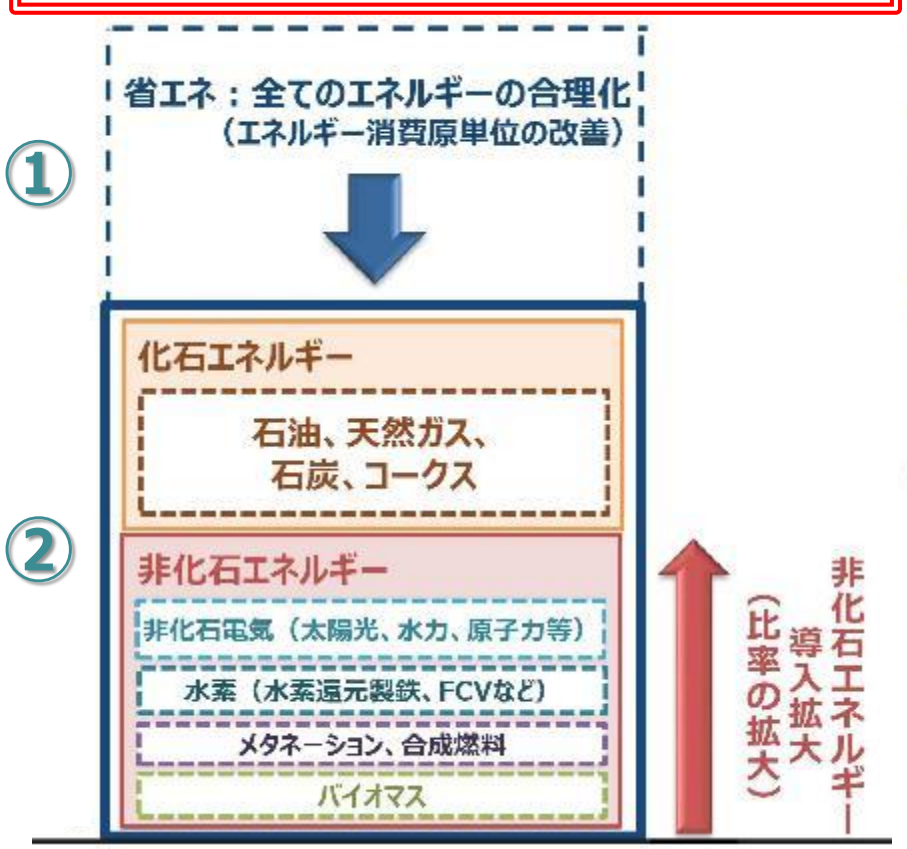
2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■工業会の活動･取り組み姿勢

（１） 現状把握からの課題抽出

① 2050年カーボンニュートラル実現に向けた考え方と
2030年エネルギー需給見通し

①省エネで全てのエネルギーの合理化･効率化を図る。
②需要側で「非化石エネルギー導入拡大」を進める。



●2030年エネルギー需給見通し

[百万kl]	2013年度		2030年度		
石油等	233	43%	130	31%	減少
石炭	137	25%	80	19%	
天然ガス	127	23%	80	18%	
原子力	2	0%	40	9~10%	増加
再エネ	46	8%	100	22~23%	
水素･アンモニア	0	0%	2	1%	
合計	544	100%	430	100%	

※2030年度の数値は概数であり、合計は四捨五入の関係で一致しない場合がある

一次エネルギー供給構成割合において、再エネ･原子力拡大。
⇒電気の存在感拡大
◆給湯ではガスの座席を確保することが必要

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■工業会の活動･取り組み姿勢

（１） 現状把握からの課題抽出

② 高効率給湯機ストック目標

●国が立てる高効率給湯機の普及見込み

	2030年ストック台数		（参考）進捗状況 2012年度→2019年度 ※ () は進捗率
	見直し前	見直し後	
潜熱回収型給湯器	2,700万台	**3,050万台**	340万台→1050万台 (30%)
燃料電池※	530万台	**300万台**	5万台→30万台 (5%)
HP給湯器	1,400万台	**1,590万台**	400万台→690万台 (29%)

※燃料電池を含む2030年の水素発電の新たな目標は他の水素発電も踏まえて今後検討
※発電効率の向上分は転換部門に計上されているため、省エネ量には含まれていない

（出典）資源エネルギー庁_第34回省エネルギー小委員会_事務局資料②

潜熱回収型給湯器 → 2021年度で約1,250万台
◆残り10年で約1,800万台の普及が必要
☞ 現在の2倍に需要拡大

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■工業会の活動･取り組み姿勢

（１） 現状把握からの課題抽出

③ 現在のエコジョーズ（EJ）率

（2023年4月～2024年3月 JGKAデータ）

区　分	EJ率	EJ率（LPガス）	参考EJ率（都市ガス）
ガス給湯器全体	39.2%	33.3%	42.7%
・ガス瞬間湯沸器(先止式)	**7.3%**	**7.5%**	**7.1%**
・ガスふろがま	54.0%	53.6%	54.2%
・ガス給湯暖房機器	71.0%	76.5%	70.5%

◆全体を通してアップ要。中でも、特に瞬間湯沸器、続けてガスふろがま
◆2025年以降、各区分で80%以上にする必要がある

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■工業会の活動･取り組み姿勢

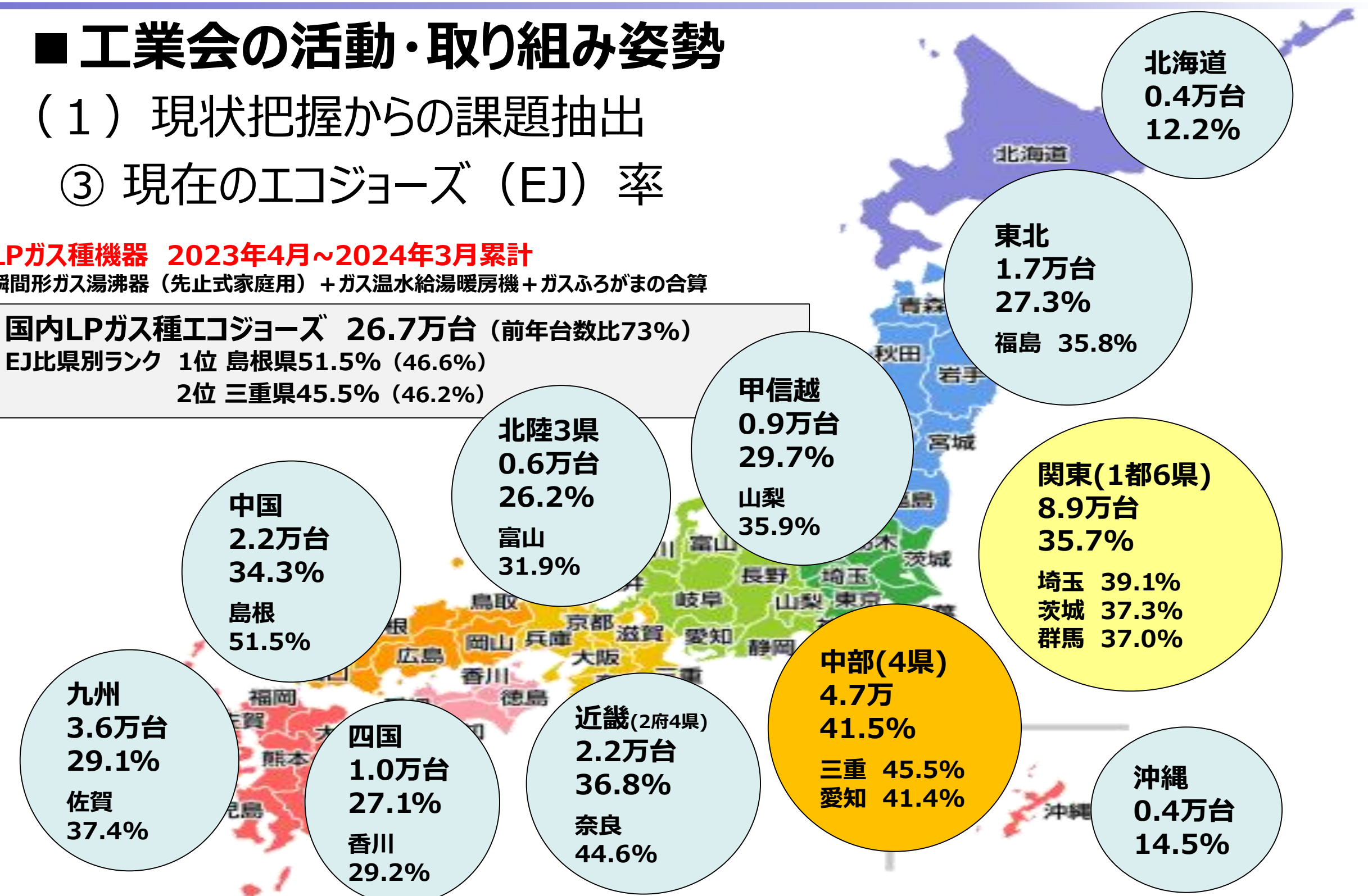
（１）現状把握からの課題抽出

③ 現在のエコジョーズ（EJ）率

LPガス種機器　2023年4月~2024年3月累計

瞬間形ガス湯沸器（先止式家庭用）＋ガス温水給湯暖房機＋ガスふろがまの合算

- **国内LPガス種エコジョーズ　26.7万台**（前年台数比73%）
  - EJ比県別ランク　1位 島根県51.5%（46.6%）
  - 2位 三重県45.5%（46.2%）



Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

2．高効率給湯機を普及させる意義･背景

■工業会の活動･取り組み姿勢

（１） 現状把握からの課題抽出

④ 潜熱回収型給湯器2030年3050万台を達成するための主要課題

１）ガス瞬間湯沸器(先止式) のエコジョーズ増量

◆賃貸住宅へのエコジョーズ導入（特に既設）

☞ 賃貸オーナーの理解が必要 ➡ 補助金活用

２）ドレン排水工事の制限緩和

◆雨水排水経路の全国一律適用

☞ 雨水排水不可の地方公共団体解消 ➡ 国交省の協力必要

３）取替時の高効率化

◆高効率給湯機への指名替え

☞ 高効率給湯機の消費者認知 ➡ 高効率化メリット(経済性、環境性)と名称周知広報

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

1．高効率給湯機とは

■エコジョーズ
■ハイブリッド給湯機

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
■工業会の活動・取り組み姿勢

3．補助金の活用について

■国の補助支援策
■活用案のご紹介

4．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

5．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■国の補助支援策

（１）住宅省エネ2024キャンペーン

※国交省 資料

対象

工事内容			補助対象	補助額
①省エネ改修	1）高断熱窓の設置※1,3 先進的窓リノベ事業		高性能の断熱窓 （熱貫流率（Uw値）1.9以下等、建材トップランナー制度2030年目標水準値を超えるもの等、一定の基準を満たすもの）	リフォーム工事内容に応じて定める額（補助率1/2相当等） 上限200万円/戸
	2）給湯器※2,3	高効率給湯器の設置 給湯省エネ事業	高効率給湯器 （(a)ヒートポンプ給湯機、(b)ハイブリッド給湯機、(c)家庭用燃料電池）	定額（下記は主な補助額） (a)10万円、(b)13万、(c)20万円
		既存賃貸集合住宅におけるエコジョーズ等取替 賃貸集合給湯省エネ事業	エコジョーズ/エコフィール* *従来型給湯器からの取替に限る *補助対象は賃貸集合住宅に設置する場合に限る	追焚機能無し：5万円 追焚機能有り：7万円
	3）開口部・躯体等の省エネ改修工事※4 国土交通省支援事業		開口部・躯体等の一定の断熱改修、エコ住宅設備（節湯水栓、高断熱浴槽等）の設置	リフォーム工事内容に応じて定める額 ・子育て世帯・若者夫婦世帯：上限30万円/戸 ・その他の世帯：上限20万円/戸 ※長期優良リフォームを行う場合は、 ・子育て世帯・若者夫婦世帯：上限45万円/戸 ・その他の世帯：上限30万円/戸 ※子育て世帯・若者夫婦世帯が既存住宅購入を伴う場合は、上限60万円/戸
②その他のリフォーム工事※4 （①1）～3）のいずれかの工事を行った場合に限る）			住宅の子育て対応改修、バリアフリー改修、空気清浄機能・換気機能付きエアコン設置工事等	

※1 断熱窓への改修促進等による住宅の省エネ・省CO2加速化支援事業（環境省）による支援（令和5年度補正予算）
※2 高効率給湯器の導入を促進する家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金（経済産業省）及び既存賃貸集合住宅の省エネ化支援事業（経済産業省）による支援（令和5年度補正予算）
※3 補正予算案閣議決定日（令和5年11月10日）以降に契約を締結し、事業者登録後（①住宅省エネ2023キャンペーン先進的窓リノベ事業の登録事業者は※1事業の事務局開設日（令和5年12月中旬予定）（開設日以降に登録申請した場合は、その申請の日）以降、②住宅省エネ2023キャンペーン 給湯省エネ事業の登録事業者は※2事業の事務局開設日（令和5年12月中旬予定）（開設日以降に登録申請した場合は、その申請の日）以降）に着工したものに限る。
※4 「質の高い住宅ストック形成に関する省エネ住宅への支援（仮称）」（国土交通省）による支援。経済対策閣議決定日（令和5年11月2日）以降に、リフォーム工事に着手したものに限る（交付申請までに事業者登録が必要）。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■国の補助支援策

（２）給湯省エネ2024事業

※経済産業省 資源エネルギー庁 資料

事業スキーム

消費者等に対し、家庭でのエネルギー消費量を削減するために必要な高効率給湯器の導入に係る費用を補助。

※ 申請手続は、消費者等と契約の締結等を行った民間企業等が行い、補助金の交付を受け、交付された補助金を消費者等に還元する。

国

↓ 補助（定額）

補助事業者
（民間団体等）

↓ 補助（定額）

間接補助事業者
（民間企業等）

→ 補助金分還元

消費者等

補助対象

高効率給湯器（ヒートポンプ給湯機、ハイブリッド給湯機、家庭用燃料電池）が対象。

※省エネ法に基づくトップランナー制度における省エネ基準を満たすもの等に限る。
※機器・性能毎に一定額を補助。
※高効率給湯器の導入と併せて蓄熱暖房機または電気温水器を撤去する場合、加算補助。

ヒートポンプ給湯機（エコキュート）

出所）三菱電機

家庭用燃料電池（エネファーム）

出所）アイシン

ハイブリット給湯機

出所）リンナイ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■国の補助支援策

（3）賃貸集合給湯省エネ2024事業

※経済産業省 資源エネルギー庁 資料

事業スキーム

賃貸オーナー等に対し、既存賃貸集合住宅でのエネルギー消費量を削減するために必要な省エネ型給湯器（エコジョーズ等）の導入に係る費用を補助。

※ 申請手続は、個人・民間企業等と契約の締結等を行った間接補助事業者（民間企業等）が行い、補助金の交付を受け、交付された補助金を個人・民間企業等に還元する。

国

↓ 補助（定額）

補助事業者
（民間団体等）

↓ 補助（定額）

間接補助事業者
（民間企業等）

→ 補助金分還元 → 個人・民間企業等

出所）ノーリツ

対象設備

	潜熱回収型給湯器（エコジョーズ/エコフィール）
エネルギー源	都市ガス/ＬＰ/石油
特徴	**従来型のガス給湯器では捨てられていた排気ガスの熱を再利用**することで、より少ないガスの燃焼でお湯を沸き上げるもの。
価格（機器＋工事費）	20～35万円程度
補助額	追い焚き機能なし：5万円/台 追い焚き機能あり：7万円/台
主な条件	既存賃貸集合住宅において、一定の基準を満たしたエコジョーズまたはエコフィールに取り替える ※従来型給湯器からの取替に限る

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■活用案のご紹介

（１）給湯省エネ2024事業
子育てエコホーム支援事業(リフォーム)併用
申請補助金条件 20,000円クリアの活用案

＜パターン1（ハイブリッド給湯機＋浴室乾燥機）＞ ※性能加算条件A･Bの両方満たした場合

(給湯省ｴﾈ) 150,000 ／ (子育てｴｺ)23,000 ＝ 計 173,000

給湯省エネ2024事業による補助申請が受理された場合は、子育てエコホーム支援事業における1申請あたりの合計補助額が2万円以上で申請可能。

＜パターン2（ハイブリッド給湯機＋ビルドインコンロ＋レンジフード）＞ ※性能加算条件A･Bの両方満たした場合

(給湯省ｴﾈ) 150,000 ／ (子育てｴｺ)14,000 ＋ 13,000 ＝ 計 177,000

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■活用案のご紹介

（１）給湯省エネ2024事業

子育てエコホーム支援事業(リフォーム)併用
申請補助金条件 20,000円クリアの活用案

＜パターン3（ハイブリッド給湯機＋ビルトイン食器洗機）＞ ※性能加算条件A･Bの両方満たした場合

(給湯省ｴﾈ) 150,000 ／ (子育てｴｺ)21,000 ＝ 計 171,000

＜パターン4（ハイブリッド給湯機＋高効率給湯器）＞ ※性能加算条件A･Bの両方満たした場合

(給湯省ｴﾈ) 150,000 ／ (子育てｴｺ)30,000 ＝ 計 180,000

2世帯住宅において、ハイブリッド給湯機の設置に併せて、高効率給湯機を交換する。
つまり、ハイブリッド給湯機とは別のシステム（系統が異なる等）として独立した高効率給湯機を設置した場合、補助を受けることができます。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■活用案のご紹介

（２）子育てエコホーム支援事業(リフォーム)

申請補助金条件 50,000円クリアの活用案

＜パターン1（高効率給湯器＋ビルドインコンロ＋レンジフード）＞

(必) 30,000　＋　14,000　＋　13,000　＝　計 57,000

ビルドインコンロを設置するなら同時にレンジフードも設置提案

＜パターン2（高効率給湯器＋ビルトイン食器洗機）＞

(必) 30,000　＋　21,000　＝　計 51,000

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

3．補助金の活用について

■活用案のご紹介

（２）子育てエコホーム支援事業(リフォーム)

申請補助金条件 50,000円クリアの活用案

＜パターン3（高効率給湯器＋浴室乾燥機）＞

(必) 30,000　＋　23,000　＝　計 53,000

浴室乾燥機を新設するなら
給湯器を給湯暖房タイプに
機能アップ提案

エコ住宅設備の種類		補助額
太陽熱利用システム		30，000円／戸
高断熱浴槽		30，000円／戸
高効率給湯器		30，000円／戸
蓄電池		64，000円／戸
節水型トイレ	掃除しやすいトイレ	22，000円／台
	上記以外	20，000円／台
節湯水栓		5，000円／台

※登録された型番の製品を使用した工事のみが対象です。

家事負担の軽減に資する設備の設置

種類		補助額
ビルトイン食器洗機		21,000円／戸
掃除しやすいレンジフード		13,000円／戸※1
ビルトイン自動調理対応コンロ		14,000円／戸※1
浴室乾燥機		23,000円／戸
宅配ボックス	住戸専用※2の場合	11,000円／戸
	共用の場合	11,000円／ボックス※3

※1 「キッチンセットの交換を伴う対面化改修」で補助金が交付される場合、本項目は補助の対象となりません。
※2 共同住宅においては、単数のボックスなど当該住戸用に独立して設置された宅配ボックスに限ります。
※3 例えば、1の宅配ボックスに4つのボックスが設置されている場合の補助額は44,000円となります。
（注） 共用の宅配ボックスは、設置するボックス数（20を上限とする）に応じた補助額とします。
詳細は（参考2）宅配ボックスの設置をご参照ください。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

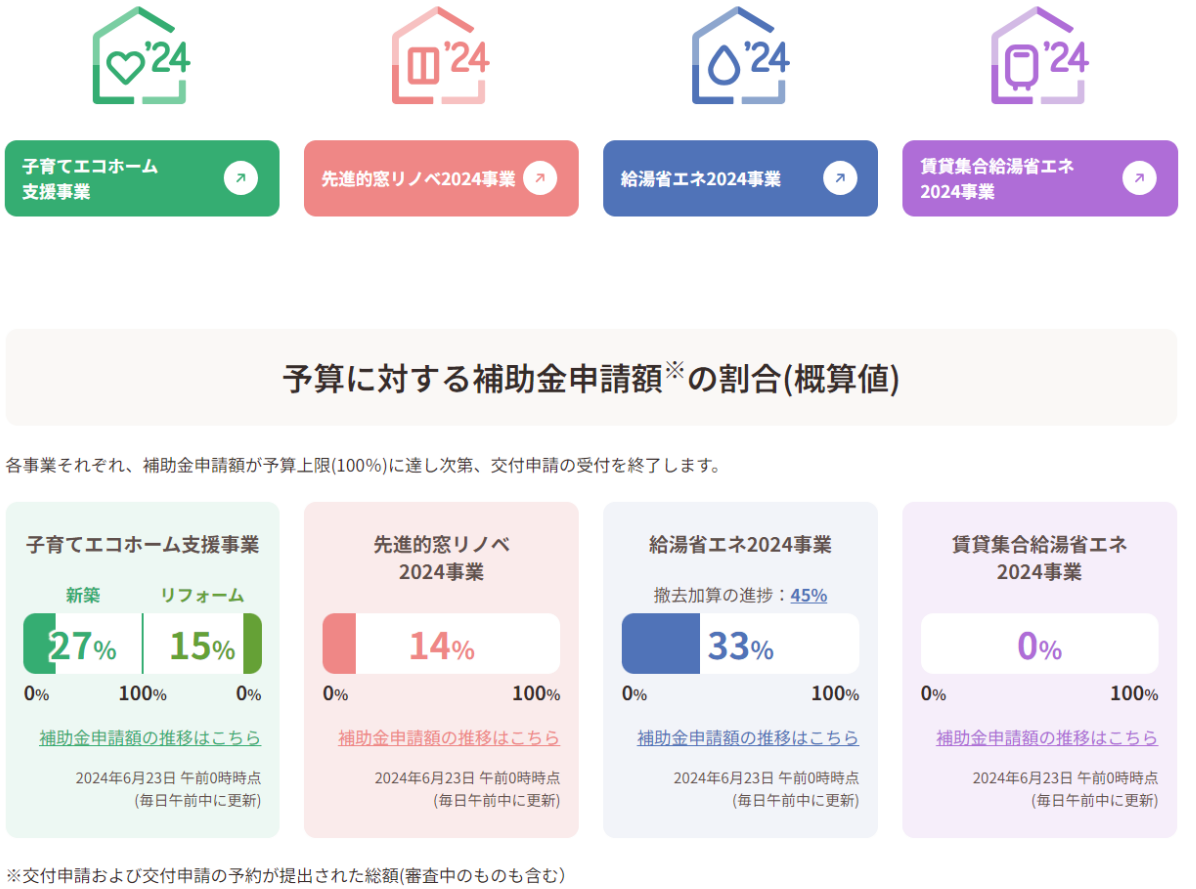
3．補助金の活用について

■積極的な支援事業の活用をぜひ、お願いいたします！！

- 各LPガス事業者様には、
  支援事業の事業者登録を
  お願い致します。
  お客様が事業者検索でお店を
  探せるスキームにもなっております。

- 支援事業公式ホームページで、
  事業予算進捗が確認できます。

  画像は2024年6月23日現在



※交付申請および交付申請の予約が提出された総額(審査中のものも含む)
なお、審査等により却下または取り下げされたものは含みません。

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

1．高効率給湯機とは
- ■エコジョーズ
- ■ハイブリッド給湯機

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景
- ■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
- ■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
- ■工業会の活動・取り組み姿勢

3．補助金の活用について
- ■国の補助支援策
- ■活用案のご紹介

4．高効率給湯機を普及させる取り組み
- ■消費者への周知活動

5．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

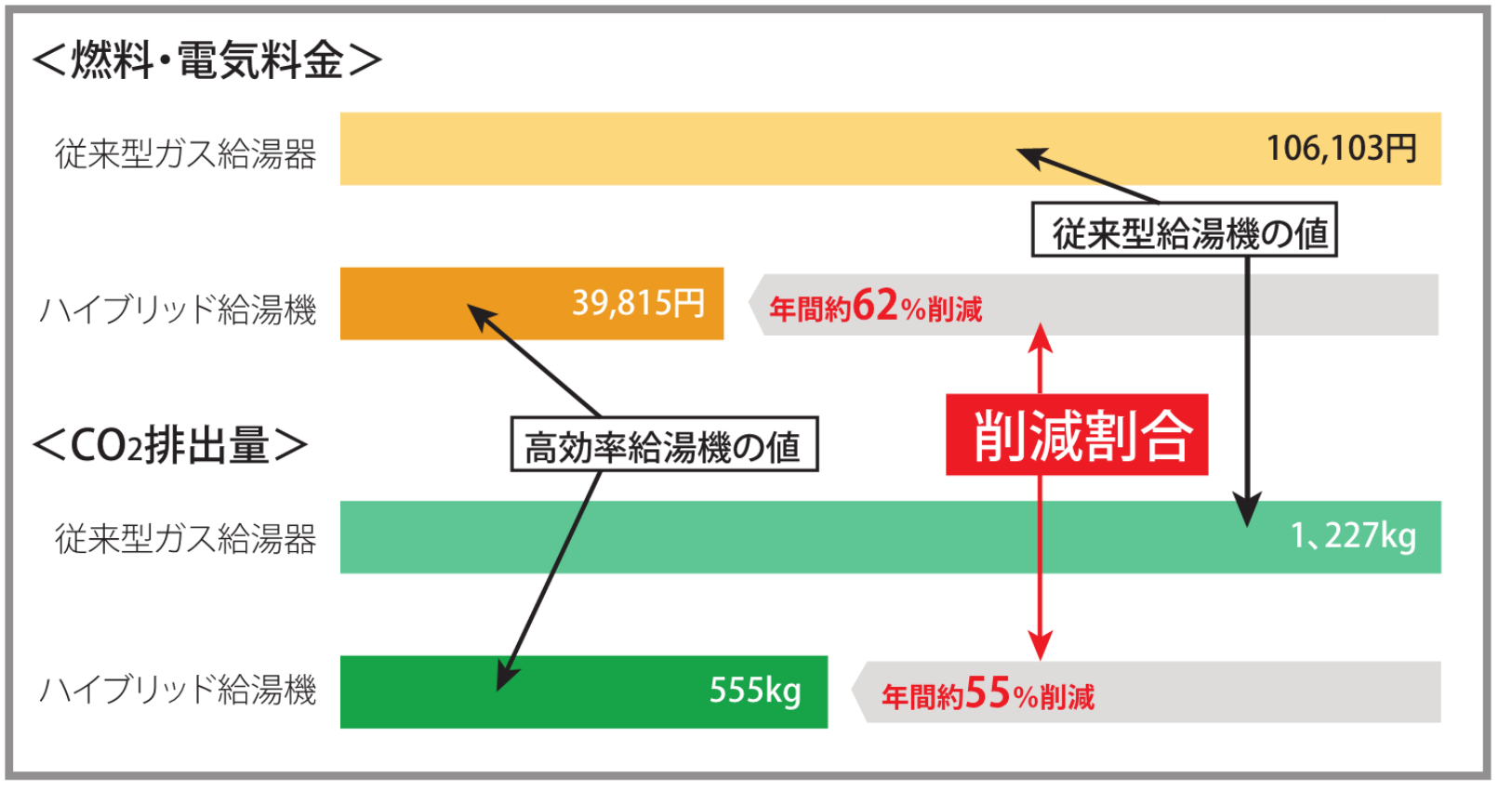
4．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

（１）経済性、環境性 シミュレーターのご紹介

給湯機を高効率なものに取り替える場合において、
ガス・電気料金、CO_2排出量の削減効果を概算できます。

[ハイブリッド給湯機 試算例]（給湯のみ、追焚き・保温除く）



※試算条件：年間給湯負荷16.6GJ ※建築研究所：平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）、従来型ガス給湯器：モード熱効率 78.2%
都市ガス料金 ※出典元：都市ガス事業便覧（平成28年度地域別平均実績より）、LPガス料金 ※出典元：石油情報センター(平成28年度月次平均価格(50㎥)データの地域別単純平均より)
電気料金 ※出典元：全国家庭電気製品公正取引協議会（令和4年7月改訂電力料金の目安単価より）

（ア）お住いの都道府県を選択
（イ）家族人数を選択
（ウ）燃料の種類を選択
⇓
計算へ

シミュレーターは、こちらの各
エコジョーズ・ハイブリッド給湯機
ページから

https://www.jgka.or.jp/torikae_kounyuu/high_efficiency/index.html

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

４．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

（２）高効率給湯機の周知活動

（一社）日本ガス石油機器工業会は、
TVer CMを活用して、
高効率給湯機の周知拡大を図ります。

お得な家庭用給湯機と言えば？

高効率給湯機！

エコジョーズ、エコフィール、ハイブリッド給湯機の
CM（１５秒）をフジテレビ系ドラマに配信中

配信期間：６月１２日～７月３１日

※Youtube：ＪＧＫＡチャンネルにも掲載しています。
https://www.youtube.com/watch?v=-gqMbRBWrFY

TVer

JGKA

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

４．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

（２）高効率給湯機の周知活動

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

説明内容

1．高効率給湯機とは

■エコジョーズ
■ハイブリッド給湯機

2．高効率給湯機を普及させる意義・背景

■世界との約束と給湯機が占める家庭内エネルギー
■これから求められていく住宅の在り方、国の住宅政策
■工業会の活動・取り組み姿勢

3．補助金の活用について

■国の補助支援策
■活用案のご紹介

4．高効率給湯機を普及させる取り組み

■消費者への周知活動

5．まとめ

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved

５．まとめ

最後に、

お湯は給湯・暖房に使われ、日常生活では第4のインフラとも考えられます。
地球温暖化対策と同時に災害時等のレジリエンス視点も合わせ、分散型エネルギーであるLPガスの高効率給湯機は大きな価値があると捉えております。

「住宅省エネ2024キャンペーン」は、2030年低炭素化に向けた国の大きな支援です。
この事業を余すことなく活用し、高効率給湯機が標準となり且つ消費者の生活向上に繋がることを期待いたします。

※住宅省エネ2024キャンペーン 特設サイトを公開中

https://www.jgka.or.jp/torikae_kounyuu/high_efficiency/jutakushoene2024cp/index.html

Copyright © 2024 Japan Industrial Association of Gas and Kerosene Appliances All Rights Reserved